

# NEWS RELEASE

2015.12.9

あでやかなる日本美 華やく心でたどる「粧い」の源流  
ポーラ文化研究所 40 周年記念展「祝いのよそほい」  
2016 年 1 月 15 日(金) から



ポーラ ミュージアム アネックス(東京・中央区銀座)では化粧にまつわる幅広い研究活動を続けているポーラ文化研究所の設立 40 周年を記念した展覧会「祝いのよそほい」を 2016 年 1 月 15 日(金) から 2 月 21 日 (日) まで開催します。

新春にギャラリーを“<sup>よそほ</sup>粧う”のは江戸時代に花開いた、日本のあざやかな「美」の系譜です。婚礼や晴れ(ハレ)の日の装いはもちろん、日々の「化粧」ひとつにも女性は心踊るような、ときめきを感じてきたはずです。白粉を塗り、眉をひき、紅をさす。そのひとつときの至福を彩ってきた道具や装身具。浮世絵から見えてくる往時の洒落た風俗。縁起をかつぎ、めでたさで愛されてきた吉祥の文様たち。時代は変われど、見目麗しくの根底に流れる心意気や感性は今を生きる私たちの「よそほい」の中に息づいています。

本展は「化粧・女性・美意識」をキーワードに、化粧文化の研究活動を行っているポーラ文化研究所40周年記念展となります。新しい年の始まりを祝した「嫁入り」「元服」「晴れ(ハレ)の装い」「吉祥文様」の4テーマで繰り広げる華やかな「和」の晴れ姿を是非お楽しみください。

## || 展覧会概要 ||

展覧会名：ポーラ文化研究所 40 周年記念展「祝いのよそほい」

会 期：2016 年 1 月 15 日(金) から 2 月 21 日 (日) [38 日間] ※会期中無休

開館時間：11:00 - 20:00 (入場は 19:30 まで)

入 場 料：無料

会 場：ポーラ ミュージアム アネックス (〒104-0061 中央区銀座 1-7-7 ポーラ銀座ビル 3 階)

アクセス：東京メトロ 銀座一丁目駅 7 番出口すぐ / 東京メトロ 銀座駅 A9 番出口から徒歩 6 分

JR 有楽町駅 京橋口から徒歩 5 分

主 催：株式会社ポーラ・オルビス ホールディングス

U R L : <http://www.po-holdings.co.jp/m-annex/>

右：「美艶仙女香」 深斎英泉 文政頃 左：「三定例之内 婚礼之図」一勇斎国芳 嘉永元年

【リリースに関するお問い合わせ】株式会社ポーラ・オルビス ホールディングス コーポレートコミュニケーション室  
info-annex@po-holdings.co.jp TEL 03-3563-5540 / FAX 03-3563-5543

【読者からのお問い合わせ先】ポーラ ミュージアム アネックス TEL 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

|| ポーラ文化研究所 ||

ポーラ文化研究所は、1976年の設立以来、「化粧・女性・美意識」をキーワードに東西の化粧史や各時代の風俗や美人観など化粧に関わる幅広い研究活動を行い、その成果を出版物や調査レポート、展覧会等で広く社会へ発信しています。化粧道具や装身具を約6,500点、文献資料15,000冊を収蔵。

「ポーラ化粧文化情報センター」では、これらの資料の紹介や閲覧などの情報提供サービスを行っています。

ポーラ文化研究所 URL : <http://www.po-holdings.co.jp/csr/culture/bunken/>

|| みどころ ||

「嫁入り」

結婚は今も昔も、女性の人生の中で大きな節目である。その喜びに合わせて持参したのが婚礼化粧道具である。江戸時代の女性は婚約、または結婚するとお歯黒をした。お歯黒の黒は、ほかの色に染まらないところから、貞女の印とされたからである。

右：「円鏡・円鏡箱・鏡台」 江戸後期

左：「お歯黒道具一式」 江戸後期



「元服」

江戸時代の女性は、結婚が決まるとお歯黒をした。それを半元服といった。そして、子供が来ると眉を剃った。それを本元服といったのである。公家や武家といった上流階級の女性たちは、儀式のときに額に別の眉を描いたが、一般庶民は、剃ったままであった。

『化粧眉作口傳』 宝暦12年



「晴れ(ハレ)の装い」

婚礼時の花嫁を美しく演出するのが、婚礼衣装であろう。とくに目を引くのが吉祥文様の松竹梅や鶴亀が描かれた豪華な打掛である。衣装全体で花嫁の喜びを表し、末永く幸せになれるよう、両親の願いも込められている。

右：「白紵子地松竹梅鶴亀模様打掛」 幕末~明治

左：「紅白梅宝尽くし模様箱迫」 江戸末期



「吉祥文様」

代表的な吉祥文様は、松竹梅、牡丹、鶴亀、蝶、獅子、菊、扇面、貝、「高砂」「寿」といった文字、そして宝尽くしなどであろう。女性の衣装や髪飾り、化粧道具などにも描かれ、縁起ものとして身分、階級を越えて好まれた。

右：「高砂文字柄鏡」 江戸後期

左：「松竹梅鶴亀びらびら簪」 幕末~明治

